

環境ニュース（士幌町環境マネジメントシステム）

～環境に優しい士幌町を目指して～

ここでは役場で行っている環境マネジメントシステムの内容や取り組みについて紹介します。

今回は、平成22年12月27日に行われた、LAS-E判定委員会について報告します。

2010年12月27日

LAS-E継続状況の点検結果について

（ 通 知 ）

LAS-E判定委員会

委員長 寺西 俊一

委員 山本 武

委員 杉本 裕明

委員 佐藤 徹

LAS-E判定委員会において、継続的な取り組みの監査報告を受け、その継続状況を点検・検討した結果、以下の所見を通知します。

1. 運用自治体

北海道士幌町

2. 運用中の類型区分

エコアクション(環境活動)部門 第1ステージ

エコマネジメント(環境経営)部門 第1ステージ

エコガバナンス(環境自治)部門 第1ステージ

3. 点検の対象となる期間

平成22年度（第1ステージ第五期目）

4. 継続状況に関する所見

別紙にて通知いたします。

所見

<全般的な事項>

土幌町の平成 22 年度（第五期目）の運用状況を検討した結果、L A S-E が定める共通実施項目の実施が継続され、共通実施項目と独自目標の監査も適切に行われていることから、土幌町環境マネジメントシステムが L A S-E に準拠し適正に維持されていると判定します。

独自目標の監査は平成 21 年度実績に対するものでしたが、省エネ・省資源の取り組みについて L A S-E 運用開始前（平成 16 年度）からの経年的な推移を見ると、電気使用量を中心に職員の行動による削減がほぼ頭打ちの状況となり、年度ごとの増減はもっぱら業務上の事情や気候の寒暖によって起きているようです。運用 5 年目となって取り組みが職場に定着したと評価できますが、一方で独自目標の設定内容を見直す時期に来ているとも言えます。エネルギー・資源の使用量だけでなく、例えば施設の稼動時間（日数）あたりのエネルギー使用量、公用車の燃費（走行距離あたりの燃料消費量）、自然エネルギーの新規導入量など、エコアクションの取り組みの到達点と課題を把握できる目標を工夫してはいかががでしょうか。

共通実施項目の監査結果を見ると、昨年度に指摘された運用のしくみ・体制の面での課題などが顕著に改善されており、P D C A サイクルが機能していると判断できます。今後は、前々回の判定委員会（平成 21 年 12 月 28 日）の所見でも言及があったように、教育施設から地域への波及や連携を図るなど、第 1 ステージを越えた独自の取り組みに展開されることを期待します。

<監査について>

従前から指摘のとおり住民監査員の拡大がなかなか難しい状況にありますが、一方で、今後は事業者と連携して取り組みを役場から地域へ広げたいとの意向が監査の中で示されました。その一環として、事業者が環境行動に取り組むだけでなく、L A S-E 監査にも参加することが考えられます。町の基幹産業である農業をはじめとする事業者と連携した、土幌町らしい新しい監査を模索してほしいと思います。

<今後について>

現在 L A S-E では規格改訂を審議中で、来年度には新規格発行の予定です。その際には、L A S-E が、各自治体が独自性を発揮し新しい環境政策に弾みを付けるための仕組みとして発展すると思われます。土幌町が、改訂後の L A S-E を大いに活用して、環境基本計画（平成 20 年 3 月策定）にある「ごみ埋立・焼却量を 2 分の 1 に」「農村景観を活かした個性的なまちづくり」「町民参加による地産地消の場づくり」など、特色ある環境政策を推進することを望みます。これが第 2 ステージへのステップアップと環境基本計画の進捗管理にもつながり、一体的な前進となるでしょう。土幌町の今後の新たな取り組みに期待します。